

～ ヴァナッカム ～  
**வணக்கம்**

スリランカ通信 No. 12 平成 29 年度青年海外協力隊 和田さとみ 環境教育

**வணக்கம்** (タミル語: ヴァナッカム=こんにちは) 2019 年、新年あけましておめでとうございます。和田さとみです。  
 今年も、できる限り、みなさんにスリランカ現地の情報をたくさんお伝えしていきたいと思っています。よかったら読んでください。

私は、真夏のクリスマスを任地バットикаロアで迎え、新年は日本から訪ねに来た友人と共に、スリランカ南部のゴールという場所で迎えました。季節がずっと真夏ですので、右の写真のように、年中ノースリーブでも平気で過ごすことができます。日本の冬の鍋やおでんは恋しいですが、残されたスリランカでの今しかない日々を大切に、スリランカの文化をおもいきり楽しんで、学んで、たくさん吸収したいと思っています。



和田さとみ  
 சதொமி வடா

**オーストラリアのボランティアさんとタイアップ企画：第二回ビーチクリーン活動**



二回目のクリーン活動、参加者は2倍に！

11 月は雨期による大雨で、予定していたクリーン活動は延期され、12 月 1 日に第二回を実施しました。前回に比べて、巡回先の生徒や住民など、多数の参加があり、少しずつ規模が大きくなっています。配属先であるバットикаロア市役所の市長や環境局も視察にみえて、地元新聞でも、紹介していただきました。( 地元新聞 Tamil Mirror 12 月 3 日付 )

相変わらず、住民による不法投棄の問題があり、ガムの包み紙といった小さなゴミから、なんと！バイクやヘルメットなども捨てられており、バットикаロアの海岸沿いはまるでゴミの埋め立て地のようになっていました…。何らかの手を打たないと、今後大変な環境問題(生態系への影響)や健康被害が起きるといった状況でした。



↑ 今回は巡回先の子どもたちも参加



↑ 近所の子どもたちや協力隊仲間も参加



↑ 回収ごみは、プラスチックや不燃ゴミばかり…

**市役所公式会議：廃棄物処理に関わる条例改正の協議**

市役所では、前回実施した不法投棄ミーティングを初期ミーティングとして、市役所の副助長が関係職員を公式招集し、廃棄物処理に関わる条例協議が正式に行われました。廃棄物処理に関する条例は 1989 年に初制定されていますが、その後改定されていません。3 年前に現副助長が州政府に改正案を提出しましたが却下され、そのまま風化してしまったようでした。私も参加させていただき、約 3 時間に及ぶ協議の末、条例の改正素案が完成しました。



↑ バットикаロア市役所にて公式ミーティング

**政府関係者と共に：条例改正協議**

その後、JICA 環境専門家に相談し、政府関係者との改正案協議が実現しました。副助長と共にバットикаロア市役所の条例改正素案をもって、首都コロomboに上がりました。直接政府関係者から条例に関わるアドバイスをいただくことが実現しましたが、副助長はタミル圏、政府関係者はシンハラ圏で言葉の壁が…。互いに英語を介しますが、詳細を詰めるのに時間がかかります。



↑ 政府関係者から詳細アドバイス

**条例改正へ**

日本にはない、多文化共生社会ならではの問題がスリランカにはあります。

## スリランカ満月の休日：文化祭典で「ゴミポイ捨てをやめよう！」

スリランカは満月の日(ポーヤデー)は国民の休日です。パッティカロア市役所の市議会議員からの要請で、タミル語で文化に関するスピーチをしてほしい、と頼まれました。パッティカロアの大衆に向けてメッセージを送ることができる絶好のチャンスになると捉えて、私は「パッティカロアの海を守るために、ゴミのポイ捨てを辞めましょう」とタミル語で訴えました。スリランカのシンハラ人ですら、タミル語を話す人が少ない現状の中、日本人がタミル語を話す、ということにとでも注目され、市役所や報道機関でも紹介していただきました。(12月22日 18:53 付 Batticaloa Municipal Council FACEBOOK にて 音声あり)



↑ ガンジー公園で行われた文化祭典でのスピーチ

## スリランカ伝統医療アーユルヴェーダ アビヤンガセラピー

スリランカには、世界保健機構(WHO)が認める、5000年以上の歴史を持つ世界最古の伝統医学：アーユルヴェーダがあります。(詳しくは、スリランカ通信 No.4 を参照)。「アーユル」とは生命、「ヴェーダ」とは科学、つまりアーユルヴェーダとは、「生命の科学」であり、天然ハーブや天然有機植物オイルなど自然の恵みの力を借りて、心身の浄化を促し、体と心の健康を維持しようとする、スリランカの伝統予防医学です。スリランカではアーユルヴェーダの国家資格を持った医者や、アーユルヴェーダ病院、国家組織としては、アーユルヴェーダ省があり、正式な「医療」として成り立っています。

アビヤンガとは、アーユルヴェーダの治療に入る前段階のオイルトリートメントのことを言います。「マルマ」と呼ばれるエネルギーポイント(ツボのようなもの)にアプローチし、リラックスしながら浄化(老廃物の排泄)と強壮(若返り)を促すための施術です。以前から自然療法には興味があり、8月に初級コースを学びましたが、スリランカ滞在中に、自分の健康を自分で維持するための方法を今のタイミングで本格的に学んでおこうと考え、今夏にご縁があったスリランカ・コロombo在住20年以上の桑川先生(詳しくは、スリランカ通信 No.9 を参照)にお願いし、アビヤンガセラピストの講習を本格的に受講することにしました。今回はスリランカのアーユルヴェーダ医師から直接、アーユルヴェーダの歴史や理論を学びました。日本ではまだまだリラクゼーションやエステという感覚で捉えられるアーユルヴェーダですが、歴とした医療であることを今回本格的に学べたことは、貴重な体験となりました。



↑ アーユルヴェーダ医師から理論を学ぶ



↑ アビヤンガセラピストとしての公式証明

## スリランカの宝石事情

スリランカの輸出3代商品は、紅茶、天然ゴム、ココナツですが、鉱産物としては宝石も有名です。ダイヤモンド、エメラルド、翡翠(ひすい)を除く、他全ての多種多様なカラーストーンが採れると言われています。各種観光ガイドブックには、スリランカの「ラトゥナプラ」という場所が代表的な宝石の産地で有名、と書かれており、市街地では原石を売りに商人で溢れています。歴史上では13世紀、中国からの帰りにスリランカを寄ったマルコポーロが「東方見聞録」の中で、セイロン島の宝石がどんなにすばらしく貴重なものであるかが記されています。現代でもチャールズ皇太子は故ダイアナ妃へ、長男ウィリアム王子はキャサリンへ贈った妃婚約指輪には、スリランカ産のブルーサファイアが使われたとか。しかしながら1988年頃からだんだんと天然石も姿を消しつつ



↑ 10倍ルーペで宝石の傷や含有物を調べます



↑ 宝石内インフュージョン(異物)を確認している桑川先生

あり、現在ではホワイトサファイア、ムーンストーン、ガーネットくらいしか採れないようです。アーユルヴェーダでは、宝石は身体の持つ特性やエネルギーの振動を吸収し、人間の生命力の中心「チャクラ」に活力を与える、と言われています。この教えから、自分に合ったカラーストーンを身につけているスリランカ人は老若男女多く見られ、スリランカ人の生活に深く根付いています。

スリランカ通信 No. 13

で会いましょう!

